

令和7年9月 川口市議会定例会

市長の所信と報告

川 口 市

本日、9月市議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様には、公私にわたり大変ご多用の中、ご健勝にてご参集を賜り、厚く御礼を申し上げます。

提案理由の説明に先立ちまして、お許しをいただき、所信と市政に関する報告を申し述べたいと存じます。

今年は、戦後、そして原爆投下から80年、また核兵器廃絶を掲げた川口市平和都市宣言から40年の節目の年であります。ここに、先の大戦で犠牲となられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに恒久平和を祈念申し上げます。

現在、世界に目を向けますと、今この瞬間にも様々な地域で紛争や武力衝突が絶えず、核兵器使用の危機が高まりつつあり、唯一の原爆被爆国の我が国では、戦争を知らない世代が人口の約88.8%を占める一方で、被爆者は初めて10万人を下回り、平均年齢も86歳を超えるなど、被爆体験や悲惨な戦争の記憶を風化させることなく、次世代へ継承することが重要な課題であります。

本市で7月に開催した川口市平和展では、埼玉県原爆被害者協議会の高橋溥氏に、広島の爆心地にほど近い自宅で被爆した5歳当時の体験を講話していただきました。私自身直接その壮絶な被爆の実相や平和への強い思いを伺い、改めて戦争の悲惨さと平和の尊さを痛感したところであります。

また、去る8月9日に、私は長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に平和首長会議加盟都市の市長として参列し、当日は、早朝から激しい雨でありましたが、参加者の祈りと願いが届いたかのように、式典直前に止み、被爆者や遺族の代表に加え、アメリカやイギリス等の核保有国を含む94の国と地域の代表など4,200人余りの方々とともに、黙とうを捧げ、世界の恒久平和と核兵器廃絶への決意を、被爆地長崎の地に誓って参りました。

そして、戦争の記憶が薄れつつある今こそ、戦争を体験した世代の証言や教訓を次世代へ伝え、今日享受する平和と、安心して暮らせる社会を未来に繋げていくことが大変重要であると再認識したところであります。

今後も、市民の皆さんが命の尊さや平和の大切さについて考え、平和を愛する心を育む平和事業を推進して参る所存であります。

それでは、市政に関しまして、数点ご報告を申し上げます。

第1点は、第二本庁舎の全面開庁についてであります。

令和2年3月に完成した第一本庁舎の落成式は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、やむを得ず中止の決断に至り、私自身大変心残りでありましたが、7月27日に挙行了した第二本庁舎の落成式では、議員の皆様をはじめ、関係機関・関係団体や建設事業者の方々約400人のご列席を賜り開催したところであります。

この落成式では、川口市立高等学校吹奏楽部の生徒の皆さんの軽快な演奏と躍動感あふれるパフォーマンスがオープニングを飾り、来賓の方々より、川口の顔にふさわしい素晴らしい新庁舎が完成したとの言葉をいただくなど、大変感慨深く喜びもひとしおでありました。

また、式典に続き開催した内覧会では、夕刻まで人の流れが途切れることなく大変な賑わいを見せ、市民の皆さんが各フロアを巡り、デッキからの眺めをはじめ、カフェやマルシェで思い思いに楽しむ姿に、この新庁舎は市民の皆さんに末永く親しまれ愛される施設になると確かな手ごたえを感じた次第であります。

そして、8月から順次進めておりました各部署の移転が完了し、昨日、議員

の皆様のご列席を賜り、第二本庁舎の開庁式を執り行い、全面開庁したところであります。

この第二本庁舎には、市民の皆さんの利用頻度が高い部署を集約し、デジタル技術を活用した「書かない窓口」と「おくやみコーナー」の運用を新たに開始いたしました。これにより、マイナンバーカードなどの身分証明書の読み取りによる申請書類等の作成のほか、必要な手続きの円滑なご案内が可能となります。

また、デジタルに不慣れな方も安心して窓口を利用できるよう、受付スタッフによる対応を充実させるなど、市民目線に立った窓口サービスの向上を図ったところであり、今後も、この川口市役所本庁舎が市民生活を支える行政サービスの拠点として、市民の皆さんの期待に応えられる施設となるよう、職員一同、しっかりと取り組んで参ります。

第2点は、水道料金及び下水道使用料の改定についてであります。

水道や下水道は、暮らしの中で欠かすことができない施設であり、市民の皆さんに安全な水を提供することはもとより、速やかに生活排水を排除することや浸水被害の軽減を図ることが重要と考え、これまで経営改善や計画的な上下水道施設の更新などを進めて参りました。

しかしながら、近年、生活様式の変化や節水機器の普及など使用水量の減による収益の減少、長引く物価高騰による原材料費や燃料費の増、労務単価の上昇に加え、埼玉県営水道料金の値上げや埼玉県流域下水道に係る負担金の引き上げなどに伴い、上下水道管の更新費用や維持管理経費の捻出が今後困難となる状況が想定されているところであります。

このため、私は、令和6年7月に上下水道事業運営審議会へ適正な水道料金、

下水道使用料のあり方について諮問したところ、審議会では、これまで6回にわたり、様々な観点から慎重かつ積極的な審議が行われ、本年7月に水道料金については平均26.74%、下水道使用料については平均27.16%の改定が必要であるとの答申を受けたところであります。

こうした中、全国では上下水道施設に起因する冠水や道路陥没等の事故が連日報道され、特に、1月に八潮市で起きた大規模な道路陥没事故や、6月に本市南前川で発生した道路陥没は、汚水から発生した硫化水素により下水道管内の腐食が進み破損したことが要因とされ、上下水道施設の老朽化対策を早急に進めるべきであると捉えております。

こうした状況を鑑み、私は、市民の皆さんに将来にわたって上下水道を安全・安心にご利用いただくために、答申のとおり、値上げの改定について苦渋の決断をしたところであります。

今後は、この改定の必要性等について、市民の皆さんに丁寧な説明を行い、ご理解ご協力をお願いし、引き続き上下水道施設の計画的な更新や上下水道事業の健全かつ持続的な運営に努めて参りたいと存じます。

第3点は、川口市市産品フェア2025についてであります。

川口市の高い技術と伝統を誇る市産品の知名度向上と販路拡大、地産地消を機軸とした市内経済の好循環により地域経済の活性化を図りたいとの思いから始めた市産品フェアは、回を重ねるごとに内容を拡充し、今や本市を代表するイベントとして広く定着したところであります。

第11回目となる今年は、来月24日から3日間、オートレース場を会場とし、更なる商談を促進するため、新たに出展者交流会を開催するほか、昨年に続

き、自社の製品や技術を広く発信できる特設ステージの設置、学生の就労支援を目的とした企業研究ラリー、川口のものがづくりが体験できる技能フェスタを実施するなど、「川口ブランド」を着実に市内外へ発信し、新たなビジネスチャンスの創出に繋げて参ります。

引き続き、出展企業の魅力を引き出すプロモーション施策や商談機会の創出に一層注力し、市内中小企業の売り上げ向上や販路拡大に繋がるフェアとなるよう、鋭意準備を進めて参る所存であります。

さて、今回提案いたしました議案は、予算議案7件、条例等の一般議案41件であります。

予算議案につきましては、一般会計において、病院事業会計負担金の増額などに係る10億4,468万3千円の補正を、特別会計では、後期高齢者医療事業特別会計をはじめ3会計において、2,855万1千円の補正を、また、企業会計では、水道事業会計をはじめ3会計において、3,209万5千円の補正を、それぞれお願いするものであります。

次に、一般議案であります、「川口市選挙運動費用の公費負担に関する条例の一部を改正する条例」など、条例議案16件、契約議案4件、財産の取得議案1件、訴えの提起議案10件、調停議案1件、市道路線の認定議案1件、市道路線の廃止議案1件、決算認定議案4件、人事議案3件であります。

それぞれの議案内容につきましては、この後、副市長から説明を申し上げますので、慎重にご審議を賜り、ご可決下さいますようお願いを申し上げます次第であります。